

北から南から

全国各地で続々と道路ネットワークが完成!

(関東地区)

圏央道 相模原愛川IC、高尾山IC開通



平成26年6月28日に圏央道 相模原愛川IC、高尾山IC間が開通しました。これにより、都心を経由せず東名高速と中央高速ならびに圏越自動車道がアクセス可能となり、環状道路としての機能を発揮できることとなりました。具体的な効果としては、圏央道沿線に大規模かつ高機能な物

流拠点立地可能。都心を経由せず広域配送が可能。観光地へのアクセス向上。道路ネットワーク強化による災害時緊急輸送道路の多重性強化等があげられます。

相模原愛川IC、高尾山IC間のうち相模原愛川IC付近では、PC橋が多く採用され、本線橋では相模川橋、串川橋、下河原橋があります。また相模原愛川ICランプ橋等の8橋もPC橋となっており、周辺はあたかもPC橋の展示場のような感じです。

(近畿地区)

舞鶴若狭自動車道 小浜IC、敦賀JCT開通

中国高速道路株式会社建設を進めてきた舞鶴若狭自動車道の小浜ICから敦賀JCTまでの間(約39km)が、7月20(日)15時に暫定2車線で開通しました。

今回の開通により、舞鶴若狭自動車道は、吉川JCT(兵庫県三木市)から敦賀JCT(福井県敦賀市)までの



延長約16.2kmが全線開通することになります。

中国自動車道、名神高速道路および北陸自動車道と一体となって中国地方・近畿地方・北陸地方の広域ネットワークを形成するとともに、若狭

(出典: NEXCO中国ホームページより)



地域の観光促進・産業振興への寄与、並びに災害時の代替ルートとして大きな役割を果たすことが期待できます。

尚、福井県内区間の愛称が一般公募で「若狭さとうみハイウェイ」と名付けられました。

(四国地区)

会下橋開通式



徳島県阿南市が整備を進めてきた会下橋が6月8日に開通しました。開通に先立ち、地元の開通記念式典実行委員会主催により開通式典が盛大に行われました。

セレモニーとしてテープカット、地元の子供・園児など関係者が渡り初めを行い、最後に橋の上から桑野川の河川敷に向かって、もち投げのアトラクションが行われ、参加した近隣の子供たちはとても楽しんでいました。橋の上からもち投げを行った阿南市長は、下路式のトラス構造のため、もち投げはやりにくいですが、すばらしい橋だねと感想を述べられていました。

会下橋は、南詰め地域が大雨で集落が孤立することがあるため、緊急車

両の通行が可能となるように桑野川引堤工事に併せて架設した橋梁です。また、主塔から斜めにケーブルを張る斜張橋に似たエクストラードスド橋と、鋼管の三角形の構造を繰り返して桁を構成するトラス形式を組み合わせた斬新なデザインのため地域のシンボルになることも期待されています。

(九州地区)

東九州自動車道 宮崎、延岡開通

平成26年3月16日、東九州自動車道の宮崎、延岡のうち、都農IC、日向IC間(整備延長20km)の開通式が開催されました。

当日は沿線の延岡、日向市などでさまざまな祝賀イベントが行われ、延岡市では市民約3千人が提灯行列で市街地を練り歩き、日向市では市民参加のひよ

とこ総踊り、都農町や宮崎市でも獅子舞や歌手のライブなどが行われ、整備要望活動を開始して約半世紀待ち続けた悲願成就の喜びに沸きました。

今回の開通により、宮崎市から延岡市まで一般道を利用すると約150分かかるところが約85分となり、約65分の時間短縮となります。観光の振興・物流の効率化による地域産業の活性化、緊急医療活動の時間短縮や災害時の代替道路機能など様々な効果が期待されています。



東九州自動車道で3区間開通



(出典:国土交通省九州地方整備局佐伯河川国道事務所ホームページより)

編集委員会

- 木下 賢司 (編集委員長)
- 樫福 浄 (編集副委員長)
- 有馬 浩史
- 竹本 伸一
- 鈴木 義晃
- 的場 純一
- 松嶋 憲昭
- 小山 康寛
- 高松 正伸

編集後記

今回は、「橋の進化をたずねて」世界へ門戸を開いた長崎を皮切りに西九州の佐世保・唐津・玄海にフォーカスを当てました。江戸時代に日本で初めて長崎に石橋の技術が伝わり、その後RC橋、そしてPC長大橋へと時代のニーズにより橋の構造が移り、橋の進化を窺い知ることに興味を持っていただけましたでしょうか。

また「PCのニューフェイスたち」では、第2号発刊の平成24年度完成の特徴ある構造物紹介に引き続き、今回は同じく平成25年度完成の構造物を紹介しています。

本作品をご覧になり多種多様のプレストレスト・コンクリート技術に興味を持たれ、一人でも多くの方がPCファンになっていただければ幸いです。(廣部)